

妊娠からの貧困

園長 児嶋 草次郎

園内のアジサイがそれぞれに花を開き始めています。白、青、紫、赤、それに額アジサイ、色の種類も本数も随分増えて、見て回るだけでも楽しめるほどになりました。昨年、挿し木した苗も、プランターの中で大地に下りる日を待ち構えています。梅雨に入る頃を見計らって、また園内のあちこちに定植してあげます。2、3年もすればりっぱな株に成長し、雨にも負けない明るく元気な花を咲かせてくれるようになるでしょう。

5月末のある早朝、子供たちが登校した後のことです。自宅の裏の林に入ると、ビワの実が黄色く熟れていて、2、3個、皮をむいて食べてみると、香りもよいけど甘くて美味！幸せを感じる一時となります。この自然はこんなに平和であるのに、なぜ人間は互いに殺し合いをするようになるのでしょうか。そういえばウクライナ難民の人たち支援の募金を園内で行い、小学生の子供たちまで協力してくれて、84,400円のお金が集まりました。近々、日本赤十字社に届けてお願いする予定です。

さて、今回は母子生活支援施設設立へ向けての動きを書かせていただきます。私は最近、子供の貧困は、女性が妊娠した時から始まると考えるようになってきました。予期せぬ妊娠、望まれない妊娠に遭遇してしまった女性が、どういう選択をするかによって、その母子の運命は決まっていきます。もし、家族・支援者に恵まれず、また生活力や経済力にも恵まれなかったら、どうなるのか。日に日に自分自身を追い込んでいくことになってしまいます。その女性の意志に関係なく、その女性の子宮の中で発生した生命は、細胞分裂を繰り返しながら、確実にヒトの子として育っていくのです。本来、その子にとっても母親にとっても祝福されるべき出産を、約10か月後には迎えることとなります。ところが不幸に妊娠を隠さざるを得ない女性にとっては、地獄となってしまいます。時々、トイレで生み落して殺したとか公園等の人の目につきにくい所に捨てたというような事件は、その結果としておきてしまった犯罪です。死んだ子が一番不幸ですが、出産した女性も不幸です。その女性は一生重荷を背負って生きていかねばならないこととなります。そういう話を聞くと、神は不公平だという気持ちになってしまいます。

そういう殺人等を防止するために生まれたのが、熊本県慈恵病院の「このとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)でしょう。5月28日の朝日新聞で、「慈恵病院開設15年 計161人に」という見出しで、特集記事が掲載されました。昨年預けられた子は2人だったとか。この記事では、このポストから里親さんに引き取られりっぱな青年(大学生)に成長した航一という方を写真入りで紹介していました。「将来は、人の幸せのために何かしたい」と、航一さんは考えているそうです。自分の名前と顔を公表した航一さんの勇気と志に、私たちも力を与えていただきます。里親さん御夫婦にも、感謝の気持ちが湧きあがって来ます。生みの母親が交通事故で亡くなり、養育していた親族がポストに預けたということです。ちょっと特殊のようです。その親族は、児童相談所の存在も知らなかったのでしょうか。

この「このとりのゆりかご」もセイフティーネットの一つかもしれませんが、私は全面的にこの

ポストの存在に賛同する気持ちにはなれていません。もっと公的にやるべきことがあるのではないかと
思うのです。

妊娠・出産は女性だけが引き受けることのできる大仕事です。だからそのことに関しては特別に保
護されるべき存在です。男女平等とは言っても、女性は生理が始まった時からこの宿命を背負わされ
るわけで、その時から男性とは違った特別の支援と保護が必要です。妊娠・出産は本来人類が生き残
っていくため絶対に必要な次世代づくりの行為であり、その当事者（女性）はその役目を引き受けた
時から親族や関係者から祝福され、守られ支えられるべき存在となります。

ところが、全く逆の反応を予想しなければならないケースが現実にはあるのです。「望まれない妊
娠」の運命を背負わされた場合です。そのような運命を背負わされた女性に対する相談・支援機関は
充分と言えるでしょうか。不十分であるから、現実には不幸な殺人事件等が起きるのでしょうし、「こ
うのとりのゆりかご」ができたのでしょう。

本来、どこが対応すべきなのか。私は、セイフティーネットの一番核となるべき施設に、「母子生
活支援施設」がこれからはなるべきだと考えています。ある母子生活支援施設の施設長から、感動的
な話を聞きました。「望まれない妊娠」の場合、出産後すぐ特別養子縁組に出すケースが結構あるよ
うです。数年前、それらの斡旋機関が数百万円のお金を取っていることが分かり「人身売買か！」と
問題になったこともあります。施設長の話です。その妊娠した女性は育てる自信もないということで、
特別養子縁組として子を出すことにして、関係者が産婦人科で待ち構えることとなります。情が移る
のを避けるため、子は出産後すぐ育ての親に引き渡されるのだそうです。おそらく特別養子縁組の契
約が成立した時点から事は淡々と進められるのですが、その施設長は、こう発するのです。「待
ってくれ！もう少しお母さんと一緒にすごさせてあげてくれ！」

事の詳細については分かりませんが、母は自分のおっぱいを飲ませ、抱いているうちに、「自分で
育てたい」と言い出したというのです。スキンシップにより母性が目覚めたのです。そこで、その母
の両親にも相談することになるのですが、両親は、なんと「初孫が生まれた！」と言って喜んでくだ
さったのだそうです。

この施設長の話聞いて我々のやるべきことは、まずこれだと強く感じました。子供にとって、こ
の世で一番大切に頼るべき存在は、生んでくれた母親です。大人たちの都合でそこで親子分離してし
まったら、その子の人生は物質的には豊かに暮らせたとしても、心の世界は全く違うものになってし
まいます。その子にとってはどんなに貧乏であっても、母親と一緒に暮らせる方が幸せな人生であろ
うと、私は思います。

この友愛園の卒園生の中にも、過去に DV 等で乳児を抱えて路頭に迷った女性がいました。本来で
あれば母子分離して子を施設に入れるのが当時の常識であったかもしれませんが、私は母子一緒に友
愛社の空家に住ませ、小学校低学年までは、職員みんなで見守り、支えました。親子関係が逆転し
てからは、子は施設で生活するようになりましたが、そのケースが障がい者グループホームを作るき
っかけにもなっています。その子はその後りっぱに成人し、今では、母親として幸せな家庭生活を営
んでいます。

最近では、母子生活支援施設を利用したケースもあります。すでに閉園が決まっていて、福祉事務
所の職員の対応は冷たいものでした。閉園の理由はニーズがないということだそうで、一般のアパ
ートに入れて、関係の職員を時々通わせるから大丈夫という返事でした。実際に母子生活支援施設に行
ってみると、トイレもフロも共同であり、老朽化していて、「これじゃ、利用者はいまい」と実感さ
せられました。私は、その際、重要な課題を発見しています。このようなケースに関して、福祉事務

所と児童相談所との連携がほとんど見られないということです。現在その彼女は母子3人で、園のグループホーム近くにアパートを借り、職員に支えられながらたくましく頑張っている生活しています。

ここから母子生活支援施設の話に入っていきます。現在、宮崎県の母子生活支援施設は次々に閉鎖してしまってゼロです。「望まれない妊娠」に悩む女性の頼るべき施設がないのですから、行政としては重大な欠陥であると言えます。一般にはDV被害の母子の逃げ場として主に理解されているようですが、そういうケースについても対応できてないわけです。

宮崎県議会でも取り上げられるようになり、2021年（令和3年）2月の県議会で、ある県議が母子支援施設の設置に向けた構想について質問したのです。その時、県の保健福祉部長は、令和5年度までに設置するように取り組むと答えています。

2021年4月より、都城市内に石井記念友愛社の小規模児童養護施設「よしこの家」がスタート。一般の民家の土地建物を買って、石井記念有隣園の分園（定員6名）として設立したのです。これも何かのお導きでしょう。その分園に隣接する無認可保育園が3月末で閉園し、4月より売りに出されたのです。不動産屋から資料を取り寄せると、母子生活支援施設が建てられる十分な広さがありそうでした。6月に入ってすぐ現地を訪ね地主さんにもお会いしました。御主人と一緒に、長い間保育事業に取り組んでこられ、御主人も亡くなられ御本人も高齢となったので、閉園したということでした。長い間の地域貢献に敬服し、もし母子生活支援施設が実現したら、御夫婦の思いを引き継ぐために、保育園の名前をそのまま使わせてほしいとも思いました。6月中に県の担当課を訪ね県としての方針を確認し、石井記念友愛社の理事長としての思いも伝えました。課長は、「はたしてニーズがあるのか」と心配されていました。この事業は、都城市との連携が一番重要になりますので、都城市の担当部長に挨拶したり、市議会議員の方に相談したりしました。秋には再度県を訪問し協議。地主もこちらの計画を御理解くださり、かなり値引きいただき、役員会で了解を得て年内に購入。

今年度に入ってから、5月10日から11日にかけて、有隣園、仁愛の家、神武の家の園長と一緒に、大分、福岡の先進母子生活支援施設を3施設視察し、色々と学ぶことができました。

児童福祉法では母子生活支援施設について、次のように規定しています。

「母子生活支援施設は配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて、これらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設とする。」（児童福祉法38条）

最初に訪ねた施設は定員20世帯で、私があるべき姿としてイメージしていた「産前産後母子支援事業」にもすでに取り組んでおられました。これについては、全国社会福祉協議会が発行した「産前・産後母子支援を地域ですすめるために」という事例集に、この施設の取り組みが紹介されていますので、参考になりました。

「若年妊婦の望まない妊娠の場合は乳児遺棄の恐れ妊婦健康未受診での出産などは十分なアセスメントができない可能性がある。」

「この事業を行うことのメリットとして、施設機能である継続した伴走型の母子支援が可能であることと、子育て支援や各種手続きといった生活支援のノウハウをもっていることなどが挙げられる。また、看護師等の配置により医療的なケアも可能となり、課題に対するリスクを軽減できるという点もある。」（永生会母子ホーム）

次の施設は10世帯でした。できるだけ小さくして家族的な運営をしたいと考えますが、問題は、それで経営が成り立つのかということ。施設長さんと副施設長さん（御夫婦）が対応してくださいま

した。もともと法人は高齢者施設を経営されているということで、サービス業としての位置づけがはっきりできているように感じました。

「支援してあげているではダメで、支援させていただいているという自覚が必要。母子生活支援施設を理解していただくために福岡県は全市町村、県域も越えて関係機関を駆けずり回った。今は満床だ。『ここにお願いしたい』というケースもある。設立1年、半年前から営業して回ることが大事だ。」そんな話をしてくださいました。施設内の調度品等にも女性らしい心遣いが感じられ、大家族的な雰囲気でした。なお、この施設でも、永生会母子ホームのように福岡県より委託を受けて、「産前産後母子支援ステーション」にも取り組んでいるようでしたが、これについては、詳しく聞く余裕がありませんでした。(母子生活支援施設くぬぎの里)。

三つめは福岡市内の施設「百道(ももち)寮」です。福岡市と言えば、里親委託率の高さで全国の注目を集めています。令和元年度末で全国平均が21.5%のところ、福岡市は52.5%で新潟県(60.4%)に次いで2位です。(ちなみに我が宮崎県は12.4%で最下位から2番目)。入所施設に対する風当たりはさぞ強いものがあるのだろうと予想して訪ねました。ところが、私たちはそれを払拭するような非常に先駆的な事業計画を聞きました。

「もとより親子を分離せず、子供と保護者への支援を一体的に実践してきた母子生活支援施設には、これまで培ってきた専門性を地域の子育て家庭全体に展開する取り組みが求められている。」とし、仮称「ももちワンストップ支援センター」を日本財団の支援を受けて、モデル事業として令和5年度に立ちあげられるというのです。すでに母子生活支援施設の一部解体が始まっていました。入所型だけではなく、通所、訪問型も合わせもった多機能型に進化させると言われました。ちなみに「ワンストップ」というのは妊娠から子育てまでという意味だそうです。

その支援内容を具体的にあげると、予期せぬ妊娠に悩む女性に対しては、「オンライン妊娠相談・訪問相談・受診同行・居場所支援・養育支援・自立支援・生活支援・パートナーとの問題・家族間調整等」。また子育てに悩む母親に対しては「オンライン子育て相談・レスパイトケア・訪問相談・通所相談・家族間調整・生活支援・ペアレントトレーニング・母子一体型ショートステイ・就労支援・養育支援・自立支援等」。まさに理想的です。

最初に子供の貧困は女性が妊娠した時から始まると書きました。まず守られるべきは、その女性でありお腹の中の子供です。公的な機関としては万全を期すべきでしょう。その最前線基地が母子生活支援施設でしょう。すでに制度としても整備されてきているようですので、宮崎県でも、ぜひ実践したいと思います。子供のセイフティーネットの優先順位一番目に位置づけられるべき施設です。その次に乳児院や里親制度が来るべきです。母子分離は、母子支援を最大限にやった後に検討すべきことです。

ついでに指摘しておくならば、日本の社会的養護児童は45,000人とされていますが、そのうち5,000人ほどは、母子生活支援施設で生活している子供です。この子供たちはお母さんと一緒に生活できているのであるから、「家庭」は保障されていると言ってもよいわけです。社会的養護関係の施設の中に母子生活支援施設が埋もれてしまっているとも言え、別枠で位置付けるべきではないかとも思います。

これから、宮崎県新第一号になるべく、最大限の努力をしていきます。皆様、御支援、御指導、宜しくお願い致します。繰返しますが、子供にとって、この地球上で一番大切な存在は、生んでくれた母親です。